

巻 頭 言

早稲田大学教授
CAUA 会長

後藤 滋樹

名付け（ネーミング）の妙というものがあります。目下の流行語になっているクラウドやビッグデータは日常的に使われる単語ですから、何となく意味が分かったような気分になります。しかし定義が明確ではないとして、バズ（buzz）ワードだと言われることがあります。

具体的にクラウドやビッグデータと呼ばれている例題の内容を見ると、実は以前から知られている要素技術を組合せていることが分かります。何も驚くことはないのです。逆にいうと、世間の注目を集めるためには魅力的な名前が不可欠であることが分かります。同じ技術を別の名前と呼んでいた時期には注目されなかったのですから。

情報通信の分野だけではなく、人間社会においても名前が重要です。多くの場合に個人を名前で識別しています。同姓同名の人が現れると本人も周囲も当惑します。赤ちゃんが誕生すると親は真剣に名前を考えます。近くに同じ名前の子供がいるのはマズイ。しかしユニークな名前は正しく読んでもらえない。悩みは尽きません。

名前は言語で表現されます。文字（表象）が大切です。情報通信の新語は英語が多く、日本語ではカタカナ表記となり面白くありません。その英語の文字の出現頻度の統計を取ると K 文字の出現が少ない。目立つように積極的に K を使って KODAK にしたという有名な話があります。

長い名前では普及しません。日本語では省略短縮されてしまいます。パソコン、スパコン、スマホ、アプリという具合です。パワポで発表するプレゼン、返事はレス。世の中ではファミマ、ミスド、マクド（地域によってはマック）。秋葉原をアキバというくらいです。

発音も大切です。タイのプーケット（Phuket）は有名な観光地ですが、マレー語のブキット（bukit）と同じ「丘」の意味だそうです。プーケットという発音ならばメルヘン的な雰囲気が漂うから不思議です。そのタイの首都をバンコク（Bangkok）というのは英語名称でタイ語ではクルンテープ（Krungthep, 正式名称は寿限無のように長い）。その意味は「天使の都」。隣国のクアラ Lumpur は響きが似ているものの、言葉の意味は泥（lumpur）の合流点（kuala）です。

情報通信で紛争の原因になるのはドメイン名で、IP アドレスでは滅多に喧嘩が起こりません。人間が名前に拘ることは上に書いたところです。人間社会がドメイン名で揉めるのは自然の成り行きなのではないでしょうか。